

取扱いの趣旨

歯髄の保存・鎮静を図る目的での間接歯髄保護処置後に、疼痛等が出現しやむを得ず抜髄に至ることはあり得ることから、同月内で「C→P u l」の移行病名による間接歯髄保護処置と抜髄の各々の算定は原則として認められる。

支払基金が公表している取扱いの全文

【処置】 《平成23年9月26日》

4 歯髄保護処置

○ 取扱い

原則として、同月内で「C→P u l」の移行病名で、間接歯髄保護処置後、抜髄を行った場合、それぞれの算定を認める。

○ 取扱いを定めた理由

歯髄の保存・鎮静を図る目的で間接歯髄保護処置を行ったが、疼痛等が出現し、やむを得ず抜髄に至ることは歯科医学的にあり得る。歯髄温存療法実施後3月以内又は直接歯髄保護処置実施後1月以内に抜髄を行った場合には、通常の抜髄と別途の所定点数が告示で定められているが、間接歯髄保護処置については示されていない。この場合、間接歯髄保護処置を行った時点で抜髄は予見できないため各々の算定は認められる。

グラフの見方

1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）

歯髄保護処置（間接歯髄保護処置）と抜髄を算定しているレセプト1万件当たり、条件（C→P u l）に対して抜髄の前日以前に歯髄保護処置（間接歯髄保護処置）を算定）に該当するレセプト件数

2 折れ線グラフ

該当レセプトのうち、歯髄保護処置（間接歯髄保護処置）が査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】 審査の結果

請求どおり			: 取扱いどおり
査定 審査委員	査定 職員契機	返戻	: 検証が必要

審査結果の概要

- 全国の査定・返戻割合 0.04%
- 検証を必要とする支部 10支部

検証観点	特に検証を要する支部	備考
査定・返戻割合が高い支部	奈良、茨城、長野、岐阜、兵庫、福岡、東京	査定・返戻割合の高い順
査定・職員契機	東京	対象1万件当たり査定件数の多い順
査定・審査委員	奈良、茨城、愛知	〃
返戻	奈良、岐阜、長野、茨城、兵庫、福岡、千葉	対象1万件当たり返戻件数の多い順
該当件数（全国）	C→P u l に対して抜髄の前日以前に歯髄保護処置（間接歯髄保護処置）を算定	35,206件
取扱いに基づく審査	請求どおり	35,191件
検証を必要とする審査	査定・返戻の計	15件

事例4 「C→P u l」に対する間接歯髄保護処置と抜髄の取扱い

【認める事例】

